

第1問

当期末における商品の状況は次の通りである。

帳簿数量 850 個

取得原価 @620

実地棚卸数量 840 個

期末時価 @600

適切な解答の組合せを選択肢ア～オから選びなさい。

解答欄

棚卸減耗費 ① 円

商品評価損 ② 円

貸借対照表計上額 ③ 円

選択肢

ア) ① 6,000                      ② 17,000                      ③ 504,000

イ) ① 6,200                      ② 16,800                      ③ 504,000

ウ) ① 11,800                      ② 22,400                      ③ 527,000

エ) ① 7,200                      ② 14,800                      ③ 514,600

オ) ① 21,600                      ② 25,200                      ③ 510,000

## 第2問

当座取引のある甲銀行から受取った銀行勘定残高表に示された残高は246,000円であったが、当社の帳簿残高は241,000円であった。

差額の原因を調査した結果、次の事項が判明した。

- (1) 当社振出小切手15,000円が仕入先に未渡しであった。
- (2) 銀行手数料が当社に未通知であった。
- (3) 水道光熱費32,000円を23,000円と誤記入していた。

適切な解答の組合せを選択肢ア～オから選びなさい。

## 解答欄

銀行手数料の金額	①	円
当社で追加記入すべき金額の合計額	②	円
追加記入後の当社の当座勘定の残高	③	円

## 選択肢

ア)	①	11,000	②	27,000	③	245,000
イ)	①	9,000	②	41,000	③	246,000
ウ)	①	1,000	②	25,000	③	246,000
エ)	①	7,000	②	38,000	③	248,000
オ)	①	8,000	②	47,000	③	241,000

## 第3問

次の①から③について、適切な解答の組合せを選択肢ア～オから選びなさい。

- ① 当社は株主総会において繰越利益剰余金から 20,000,000 円の配当をすることに決した。利益準備金として積み立てるべき金額を求めなさい。なお、決算日における資本金の額は 100,000,000 円、資本準備金と利益準備金の合計額は 24,000,000 円である。
- ② 当期首に社債を額面 100 円（額面総額 50,000,000 円 償還期間は 5 年）につき 98 円で発行した。この額面金額と発行価格との差額は金利の調整と認められるものである。当期の決算において社債の帳簿価額に加算すべき金額を求めなさい。なお、償却原価法は定額法による。
- ③ 当期（自平成 29 年 4 月 1 日 至平成 30 年 3 月 31 日）の 11 月 1 日に 1 年分の保険料 384,000 円を支払った。当期の決算において、次期に繰り延べるべき金額を求めなさい。

選択肢

(単位：円)

ア)	①	2,000,000	②	100,000	③	256,000
イ)	①	1,000,000	②	100,000	③	128,000
ウ)	①	5,000,000	②	250,000	③	96,000
エ)	①	1,000,000	②	200,000	③	160,000
オ)	①	4,000,000	②	250,000	③	192,000

## 第4問

当月における原価及び生産の資料は次の通りである。

<標準原価カードの一部(製品1個当り)>

費目	標準消費量	標準価格	金額
直接材料費	5kg	@210	1,050円

<材料データ>

当月購入 45,000kg 実際購入価格 @212

当月消費 44,900kg

なお月初材料はない。

<生産データ(単位:個)>

月初仕掛品	1,600	(1/2)	・( )内は、加工進捗度を示す。
当月投入	8,900		・材料は、工程の始点で投入される。
合計	10,500		
月末仕掛品	1,800	(5/8)	
完成品	8,700		

適切な解答の組合せを選択肢ア～オから選びなさい。

解答欄

直接材料費総差異 (借方差異)	① 円
価格差異(借方差異)	② 円
数量差異(借方差異)	③ 円

選択肢

ア)	① 186,500	② 92,000	③ 94,500
イ)	① 235,000	② 135,000	③ 100,000
ウ)	① 245,000	② 123,000	③ 122,000
エ)	① 173,800	② 89,000	③ 84,800
オ)	① 173,800	② 89,800	③ 84,000

## 第5問

当社では等級別総合原価計算を行っている。次の〔資料〕に基づき、適切な解答の組合せを選択肢ア～オから選びなさい。

〔資料〕

## 1 生産データ

月初仕掛品	800 個	(1/2)	・原料は工程の始点で投入される。
当月投入	4,000 個		・ ( ) 内は加工進捗度を示す。
合計	4,800 個		・ 月末仕掛品の評価は先入先出法による。
月末仕掛品	600 個	(1/2)	
完成品	4,200 個		

	製品 A	製品 B	合計
等価係数	1	0.8	
完成品数量	2,200	2,000	4,200

## 2 原価データ

	原料費	加工費
月初仕掛品	288,000 円	146,000 円
当月投入	1,452,000 円	1,484,200 円

解答欄

- 製品 A の完成品原価 ① 円  
 製品 B の完成品原価 ② 円  
 製品 B の完成品単位原価 ③ 円/個 (円未満切捨て)

選択肢

- ア) ① 1,595,209      ② 1,448,591      ③ 724  
 イ) ① 1,762,200      ② 1,281,600      ③ 640  
 ウ) ① 1,674,970      ② 1,370,430      ③ 685  
 エ) ① 1,850,200      ② 1,278,900      ③ 639  
 オ) ① 1,594,320      ② 1,419,080      ③ 788